

土和田湖星空キャンプ場

責林県土和田市大学奥瀬学字樽部十和田市10
車でお越しの方▶東北自動車道・十和田ICより
車で約00分。八戸駅より約1時間半。七戸十和
田駅より約1時間00分。青森駅より約20時間。
電話：0666-00-0000
FAX：0000-00-0000
E-mail：xxxxxxx@mail.ocm
HP：http://www.xxxxxxx.com



の小さな星に見えるのです。ジョバンニさ
んそうでしょう」
ジョバンニはまっ青になってうなずきま
した。けれどもいつかジョバンニの眼のな
かには涙がいっぱいになりました。そうだ
僕は知っていたのだ、もちろんカムパネ
ラも知っている、それはいつかカムパネ
ラのお父さんの薄志のうちでカムパネラ
といっしょに読んだ雑誌のなかにあったの
だ。それどころでなくカムパネラは、その
雑誌を読むと、すぐお父さんの書斎から大
木な本をもってきて、ぎんがというところ
をひろげ、まっ白な頁いっばいに白に点々
のある美しい写真を二人でいつまでも見た
のでした。それをカムパネラが忘れるは
ずもなかったのに、すぐに返事をしなかつ
たのは、たびたびかなり、朝にも夕にも仕
事がつらく、学校に出てももうみんなとも
はきはき遊ばず、カムパネラともあんま
り物を言わないようになったので、カムパ
ネラがそれを知ってきどくがってわざ
と返事をしなかったのだ、そう考えるとた
まらないほど、じぶんもカムパネラもあ
われないような気がするのでした。先生はま
た言いました。
「ですからもしもこの天の川がほんとうに
川だと考えるなら、その一つ二つの小さ
な星はみんなその川のその砂や砂利の粒
にもあたるわけです。またこれを大きな乳
の流れと考えるなら、もっと天の川とよく
似ています。つまりその星はみな、乳のな
かにまるで細かにうかんでいる脂油の球に

もあたるのです。そんなら何がその川の水
にあたるかと言いますと、それは真空とい
う光がある早さで伝わるもので、太陽や地
球もやっぱりそのなかに浮かんでいるので
す。つまりは私どもも天の川の水のなかに
棲んでいるわけです。そしてその天の川の
水のなかから四方を見ると、ちょうど水が
深いほど青く見えるように、天の川のその
深く遠いところほど粒がたくさん集まって
見え、したがって白くぼんやり見えるので
す。この地図をごらん下さい」先生は中に
たくさん光る砂のつぶのはいった大きな両
面の凹レンズを指しました。
光る粉すなわち星
このいちいちの光るつぶがみんな私ども
の太陽と同じようにじぶんで光っている星
だと考えます。私どもの太陽がこのほぼ中
ごろにあって地球がそのすぐ近くにあると
します。みなさんは夜にこのまん中に立つ
てこのレンズの中を見ますとしてごらん
下さい。こっちは方はレンズが薄いのでわ
ずかの光る粒すなわち星しか見えないでし
ょう。こっちはこっちは方はガラスが厚い
ので、光る粒すなわち星がたくさん見えそ
の遠いのはぼうつと白く見えるという、こ
れがつまり今日の銀河の説なのです。そん
ならこのガラスの大きさがどれくらいある
か、またその中の星についてはもう時間で
すから、この次の理科の時間にお話ししま
す。では今日はその銀河のお祭りなのです



空と湖

のキャンプ場

土和田湖星空キャンプ場

空と湖と星空と焚き火と

「ではみなさんは、そういう風に川だと言
われたり、乳の流れたあとだと言われたり
していた、このぼんやりと白いものが本当
は何かご承知ですか」先生は、黒板につる
した大きな黒い星座の図の、上から下へ白
くけぶった銀河帯のようなところを指しな
がら、みんなに問いをかけました。

カムパネラが手をあげました。それか
ら三、四人手をあげました。ジョバンニも
手をあげようとして、急いでそのまやめ
ました。たしかにあれがみんな星だと、い
つか雑誌で読んだのでしたが、このごろは
ジョバンニはまるで毎日、教室でもねむ
く、読む本も読むひまもないので、なんだ
かどんなこともよくわからないという気持
ちがするのです。ところが先生は早くも
それを見つけたのでした。

「ジョバンニさん。あなたはわかってい
るでしょう」ジョバンニは勢いよく立ちあ

がりでしたが、立ってみるともうはつきり
とそれを答えることができないのです。

ザネリが隣の机までのびかえって、ジョバ
ンニを見てくすくすわらいました。ジョバ
ンニはもうどきまぎしてまっ赤になってし
まいました。先輩がまた言いました。「大
きな望遠鏡で銀河をよく調べると銀河は
だいたい何でしょう」やっぱり星だとジョ
バンニは思いましたが、こんどもすぐに答
えることができませんでした。先生はしば
らく困ったようすでしたが、目がムネルカ
ムバに向かかって、「ではカムパネラさ
ん」と名指しました。するとあんなに元氣
に手をあげたカムパネラが、やはりもし
もじ立ち上がったままやはり答えができま
せんでした。

先生は以外なようにしばらくじつとカム
パネラを見ていましたが、急いで、「で
は、よし」と言いながら、自分で星図を指
しました。「そこはかとなく白い銀河を大
きない望遠鏡で見ますと、もうたくさん

から、みなさんは外へでてよくそらをごら
んなさい。ではここまでです。本やノート
をお終いなさい」

そしてしばらく机の蓋をあげたりしめた
り本を重ねたりする音がいつぱいでした
が、まもなくみんなはきちんと立って礼を
すると教室を出ました。

ジョバンニが学校の門を出るとき、同じ
組の七、八人は家へ帰らずカパムネラを
まん中にして校庭の隅の桜の木ところに